

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	公益財団法人キラリ財団
施設名	富士見市民文化会館キラリふじみ
内定額	15,370 (千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		323	323
年間事業本数（※1）	主催事業	29	28
	公演事業	12	12
	（内、本助成対象事業本数）	12	10
	人材養成事業	0	0
	（内、本助成対象事業本数）		
	普及啓発事業	8	7
	（内、本助成対象事業本数）	7	6
	その他 内容： 記入してください	9	9
貸館日数	ホールごとの貸館日数	646	646
	ホール名：メインホール 座席数：802	323	323
	ホール名：マルチホール 座席数：255	323	323
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	14,785	13,975
	公演事業	3,574	3,592
	人材養成事業	0	0
	普及啓発事業	7,348	5,897
	その他 内容： 市民交流・支援事業等	3,863	4,486
	貸館事業入場者・参加者数	36,454	49,427
	その他 内容： 共催事業等	15,972	8,602
	計	67,211	72,004
施設の利用率(%)		74.7%	73.8%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	12	16	3,574	75.0%	4	4	2	2			
	共催・提携公演（※2）	8	8	15,972	85.0%		4	1			1	2
	貸館公演（※3）	230	230	47,000	75.0%	5	125	1		1		98
	計	250	254	66,546								
令和6年度	主催公演（※1）	12	16	3,600	75.0%	5	3	1	2		1	
	共催・提携公演（※2）	8	8	15,000	80.0%		4	1			1	2
	貸館公演（※3）	230	230	47,000	75.0%	5	125	1		1		98
	計	250	254	65,600								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数		入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
公-01	芸術監督企画 白神ももこ ソロダンス 『Open the Door』	目標 値	420	82.4%	来場者へのアンケート調査による 「満足度」評価	アンケート調査項目の5段階評価で 上位2段階(「大変満足」「満足」)と回 答した人が70%以上	総回答数1名 0%(未回答)	メインホールホワイエからホール客席、そして舞台上客席へ観客を誘 導する上演形態のため、鑑賞しやすさを優先し、手渡しではなくアン ケートコーナーの設置による対応としたため、数値に足りる回答数と ならなかったが、終演後の観客へのヒヤリングによって満足度をはか るようにした。		
		実績 値	212	92.1%						
公-02	キラリ☆かげき団 第18回公演	目標 値	400	78.4%	来場者へのアンケート調査による 「満足度」評価	アンケート調査項目の5段階評価で 上位2段階(「大変満足」「満足」)と回 答した人が70%以上	総回答数189名 86.8%(164名)	来場者アンケート結果において、目標としていた観客満足度を大きく 上回る成果をあげた。 また、リピーター率は目標に僅かに届かなかったが、来場客の大半 が毎年のかげき団公演を楽しみにしていることが分かった。		
		実績 値	398	94.7%	当館のシリーズ公演の来場者へ のアンケート調査による「リピー ター率」評価	アンケート項目の「当該公演への来 場回数」で、「2回以上」と回答した人 が70%以上	68.8%(130名)			
公-03	劇団うりんこ『ある晴れた夏の朝』	目標 値	400	78.4%	来場者へのアンケート調査による 「満足度」評価	アンケート調査項目の5段階評価で 上位2段階(「大変満足」「満足」)と回 答した人が70%以上	総回答数129名 90.7%(117名)	来場者アンケート結果において、目標としていた観客満足度を大きく 上回る成果をあげた。		
		実績 値	234	65.0%						
公-04	イエローヘルメッツ『シンペリン』	目標 値	220	86.3%	来場者へのアンケート調査による 「満足度」評価	アンケート調査項目の5段階評価で 上位2段階(「大変満足」「満足」)と回 答した人が70%以上	総回答数25名 92.0%(23名)	来場者アンケート結果において、目標としていた観客満足度を大きく 上回る成果をあげた。		
		実績 値	111	61.6%						
公-05	二兎社『こんばんは、父さん』	目標 値	450	75.0%	来場者へのアンケート調査による 「満足度」評価	アンケート調査項目の5段階評価で 上位2段階(「大変満足」「満足」)と回 答した人が70%以上	総回答数185名 78.9%(146名)	来場者アンケート結果において、目標としていた観客満足度、リピー ター率を大きく上回る成果をあげた。		
		実績 値	466	78.9%	当館のシリーズ公演の来場者へ のアンケート調査による「リピー ター率」評価	アンケート項目の「当該公演への来 場回数」で、「2回以上」と回答した人 が70%以上	74.2%(138名)			
公-06	三谷幸喜×戸田恵子『虹のかげら～もう ひとりのジュディ』	目標 値	450	75.0%	来場者へのアンケート調査による 「満足度」評価	アンケート調査項目の5段階評価で 上位2段階(「大変満足」「満足」)と回 答した人が70%以上	総回答数190名 78.5%(149名)	来場者アンケート結果において、目標としていた観客満足度を大きく 上回る成果をあげた。 新規来場者率は目標には届かなかったが、当館の観客の多くの戸田 ファンが鑑賞に訪れた。		
		実績 値	671	87.1%	来場者へのアンケート調査による 「新規来場者数」評価	アンケート項目の「当館主催公演へ の来場回数」で、「初めて」と回答し た人が70%以上	25.3%(48名)			
公-07	キラリふじみ狂言公演 万作の会	目標 値	520	64.8%	来場者へのアンケート調査による 「満足度」評価	アンケート調査項目の5段階評価で 上位2段階(「大変満足」「満足」)と回 答した人が70%以上	総回答数198名 80.8%(160名)	来場者アンケート結果において、目標としていた観客満足度、リピー ター率を大きく上回る成果をあげた。		
		実績 値	520	86.6%	当館のシリーズ公演の来場者へ のアンケート調査による「リピー ター率」評価	アンケート項目の「当該公演への来 場回数」で、「2回以上」と回答した人 が70%以上	79.3%(161名)			
公-08	キラリ☆風流寄席	目標 値	220	86.3%	来場者へのアンケート調査による 「満足度」評価	アンケート調査項目の5段階評価で 上位2段階(「大変満足」「満足」)と回 答した人が70%以上	総回答数116名 71.6%(83名)	来場者アンケート結果において、目標としていた観客満足度を上回る 成果をあげた。 また、リピーター率は目標に僅かに届かなかったが、私立高校の学 生の団体鑑賞により新たな観客との出会いが生まれた。		
		実績 値	225	90.0%	当館のシリーズ公演の来場者へ のアンケート調査による「リピー ター率」評価	アンケート項目の「当該公演への来 場回数」で、「2回以上」と回答した人 が70%以上	63.5%(73名)			
公-09	ニューイヤーコンサート2025	目標 値	350	55.7%	来場者へのアンケート調査による 「満足度」評価	アンケート調査項目の5段階評価で 上位2段階(「大変満足」「満足」)と回 答した人が70%以上	総回答数96名 75.0%(72名)	来場者アンケート結果において、目標としていた観客満足度を上回る 成果をあげた。 また、リピーター率は目標に僅かに届かなかった。シリーズ公演各回 の編成によって観客層が変動するものと思われる。		
		実績 値	284	48.9%	当館のシリーズ公演の来場者へ のアンケート調査による「リピー ター率」評価	アンケート項目の「当該公演への来 場回数」で、「2回以上」と回答した人 が70%以上	65.6%(63名)			
公-10	ハーツウィンズ・コンサート	目標 値	350	55.7%	来場者へのアンケート調査による 「満足度」評価	アンケート調査項目の5段階評価で 上位2段階(「大変満足」「満足」)と回 答した人が70%以上	総回答数96名 83.3%(80名)	来場者アンケート結果において、目標としていた観客満足度を大きく 上回る成果をあげた。 また、新規来場者率は目標に僅かに届かなかったが、前回のコン サート関連企画のクリニックを受講した、近隣の中学校吹奏楽部の生 徒が鑑賞に訪れた。		
		実績 値	294	50.6%	来場者へのアンケート調査による 「新規来場者数」評価	アンケート項目の「当館主催公演へ の来場回数」で、「初めて」と回答し た人が70%以上	68.8%(66名)			

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業	①公演毎に来場者へのアンケート調査を実施し「満足度」評価をはかる。 ②当館と協働する、「小・中・高等学校教諭」、「おやこ劇場運営者」、市民で組織する「事業運営サポート委員」等の市民の協力者のモニタリング評価による、劇場プログラムへの評価をはかる。	①アンケート調査項目の5段階評価で上位2段階(「大変満足」「満足」と回答した人が70%以上となる公演が、調査10公演のうち7公演以上。 ②子どもや若い世代にむけた事業展開や公演毎に行う関連企画等の内容や方針に対して、概ね高評価を得る。	①(「大変満足」「満足」と回答した人が70%以上となる公演調査10公演のうち9公演。9公演平均81.9% ②青少年と劇場との出会いの場づくりに協働している、おやこ劇場(志木、朝霞、新座)の運営者を行う会議(8回実施)、及び市民で構成される「事業運営サポート委員会」の会議(7回実施)の場で、子どもや若い世代にむけた事業展開や公演毎に行う関連企画等の内容や方針について高い評価を得た。 おやこ劇場との会議開催日 4/13(土)、6/2(日)、7/20(土)、8/25(日)、9/22(日)、11/4(祝)、12/15(日)、1/13(祝)、2/11(祝) 事業運営サポート委員会開催日 4/24(水)、5/27(月)、9/17(火)、10/21(月)、12/18(水)、1/18(水)、3/26(水)	①アンケート調査では、メインホールホワイエからホール客席、そして舞台上客席へ観客を誘導して開演する上演形態のため、アンケートブースを設置し、回答者1名のみだった、『芸術監督企画 白神ももこ ソロダンス『Open the Door』をのぞく、9公演で70%以上、平均すると81.9%と高い数値が得られた。この5段階評価での満足度と併せて、アンケート内の自由筆記欄に記される、鑑賞直後の観客の生の声は、館と観客との貴重な対話の機会となり、事業展開の手がかりとなることは勿論、職員のモチベーションアップにも繋がる。 ②おやこ劇場との会議は、志木、朝霞、新座の各劇場の運営者約10名で構成され、当館の事業担当職員も参加して、「サーカス・バザール」でのワークショップ運営や、おやこ劇場例会公演(本年度は、劇団うりんこ『ある晴れた夏の朝』)開催等の共同作業を通じて、コンスタントに意見を交換し、今後の事業の方針づくりに活かされている。事業運営サポート委員会は、現在7名の市民で構成され、当館館長が参加している。会議では、事業運営に関するヒヤリングや委員同士の意見交換を行い、次世代が生き生きと暮らせる、まちづくりの拠点施設としての、文化施設のあり方の指針づくりに役立てられている。		
人材養成事業						
普及啓発事業	①「小中学校へのアウトリーチワークショップ」への参加生徒・児童、担当教諭全員へのアンケート調査を実施し、参加者の反応をはかる。	①生徒・児童のアンケート回答者の70%以上が、「また参加・体験したい」と回答。また、担当教諭のアンケート回答者の全員が「アウトリーチプログラム」を取り入れる意義・現状の課題等について自由筆記により回答。	①「小中学校へのアウトリーチワークショップ」実施校のべ14校の、「生徒・児童」、「担当教諭」にアンケートを実施。 様式は自由筆記部分と次回参加意向の2項目 生徒・児童の回答総数→1,060名 ・「また参加・体験したい」→904名(85.3%) ・「参加したくない」→84名(7.9%) ・「未選択」:72名→(5.8%) 担当教諭の回答総数→28名	①若い世代が等しく文化芸術に触れられる事業の中心軸であり、体験した児童・生徒からのその瞬間の感想や率直な意見に聞くことに重点を置いて取り組んだ。アンケートの内容は自由筆記欄に選択一項目と極めてシンプルにした。あえて直筆で記載し回答してもらう方式としたことで、アンケートに目を通す館の担当職員や実演アーティストの読む側の想像力が掻き立てられ、双方のコミュニケーションが一層深まった。 担当教諭のアンケートには、アウトリーチプログラムを受け入れる担当教諭としての動機や意義が述べられていて、短い調整期間の中でも、当館が本事業に取り組むうえででのコンセプトを共有できていることを実感できた。 「参加したくない」と答えた生徒・児童の自由筆記内の素直な感想「恥ずかしい、目立ちたくない、皆の前での発表が嫌(演劇プログラム)」等に触れられたことも、長年アウトリーチプログラムに取り組んできた意義を原点に立ち振り返り見つめ直す機会となった。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

2002年の開館当初から、当館では芸術監督を中心に、豊かな創造性に富んだ様々な企画実施に取り組んできた。本年度は、令和7年3月をもって芸術監督の任期を終える白神ももこ芸術監督が中心となり、当館のビジョンであり、これまでの芸術監督の芸術方針にも重なる「ジャンルや垣根を越えてひとが繋がる開かれた場所づくり」に自らが率先してリーダーシップをとり、これに取り組んだ。なかでも、今年度、当館の「創造性・企画性」を向上させた特徴的な事業として、白神芸術監督の当館での活動を締めくくる事業となる、芸術監督企画『Open the Door』(2025年3月)を挙げる。
本作は、当館開館当初に白神ももこが創作した「劇場ツアー型パフォーマンス公演」を皮切りに、現在の芸術監督期までの約20年間、近年では、市民の観客から「モガ」の愛称で親しまれるような、「モガ溪谷」や「モガ惑星」等の代表作を生み出すなど、劇場の既存の枠組みを取り払うようなボーダレスな作品創造を展開してきた当館での創造活動の集大成とも言える作品として、当館メインホールを会場に創作上演した。
この創作では、白神芸術監督が進行してきた、小学生を対象にしたワークショップ「こどもステーション」、年齢・性別・障がいの有無などを問わずすべての人が一同に参加できる「ダンスの時間」を通じて、白神芸術監督と交流を続けた参加者が企画者、出演者となる、そうした新たな手法を採った創作となった。会場に訪れた観客は、ワークショップ常連の小学生メンバーに、メインホールホワイエに広がる「こどもステーション展」エリアに導かれ、こどもたちのアイディアから生まれた過去13年の活動の展示を鑑賞し、メインホール舞台上舞台へ移動。本編では、小学生から大人の4名の市民の参加者が、白神芸術監督と競演し、当館の創造活動の根底にある、市民とアーティスト、市民同士の共同作業を通じて、常に進化していく創作の醍醐味を分かち合うことができた。
また、音楽分野では、トッパンホールのプロデューサーの西巻正史氏と連携して開催している「ニューイヤークンサート」に出演する演奏家が、市内の小・中学校で行うアウトリーチプログラム(本年度は笹沼樹氏:チェロ、五十嵐薫子氏:ピアノ)を実施し、子どもたちが本物の演奏を体験することに加え、演奏家の人柄にも触れられる貴重な体験となった。
市内在住の音楽家である大澤健一氏が主宰する吹奏楽団「ハーツウインズ」と連携し、昨年度に続き開催した『ハーツウインズ・コンサート』では、コンサート本番に合わせて、楽団メンバーが指導する、吹奏楽クリニックを開催した。近隣の中学校吹奏楽部の生徒や一般の参加者がプロの演奏家による指導を受け、コンサート本番では2曲の合同演奏でハーツウインズメンバーと共演した。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①地域の外国籍の方への生活支援を行う「ふじみ野国際交流センター」を通じて、地域で暮らす外国籍の子どもたちに、日本の伝統芸能を知ってもらう。	①「ふじみ野国際交流センター」を通じて、地域で暮らす外国籍の子どもたちに、万作の会「狂言公演」(9/25開催)に来場してもらい、来場者全員に、英語訳付きの当日パンフレットを配布し、狂言の内容を分かり易く伝えることで日本の伝統芸能をより深く体験してもらう。	①以下の公演を、「ふじみ野国際交流センター(以降、FICEC)」の関係者、センターに通う外国籍の子どもたちに鑑賞体験をしてもらった。 ■キラリふじみニューイヤーコンサート2025 2025年1月19日(日)15時開演 会場:メインホール 8名 ■ハーツウインズinキラリふじみ 吹奏楽コンサート 2025年3月23日(日)14時開演 会場:メインホール 4名 ・鑑賞に際して、基本的な鑑賞マナー等を事前に学習する機会等を設けた。	日本に暮らす外国籍の方々が、当館の主催事業で文化芸術体験の機会に触れることで、日常生活のための視野や潜在的な感性を広げてもらうことを目的に、目標設定をしたが、FICEC副理事長との最初の打合せの中で、FICECに通う方にとっては、当館のような文化芸術施設は相当に敷居が高く、近隣の商業施設に行くことはあっても、キラリふじみに訪れることは無く、その存在すら認識が薄い様子があった。 当初の目標設定の段階では、万作の会による狂言公演の鑑賞を通じて、日本の伝統芸能を知ってもらおうと考えていたが、そうした状況から、FICECと館とであらためて協議をし直した。結果、本年度は台詞等の無い音楽のジャンルであれば体験のスタートとして、気軽に触れてもらえるのではないかと考えに至り、当館主催の二つのコンサートを文化芸術体験の入り口として設けることにした。 当館は、令和7年12月から大規模改修工事による全館休館を控えている。この休館中の活動として、FICECで行われている日本語教室や、こどもクラブという企画等と当館の芸術体験(アウトリーチ)がタイアップする新たな連携の具体化にむけて、視野を共有できたことは今回の大きな成果である。		

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

まず本年度、FICECとの連携を再始動できたことを第一に挙げる。FICECとの連携は平成30年度に遡る。市民が主体となり地域に様々なアートを届ける館付属のカンパニー「ACT-F」との交流イベントの実施や、FICEC理事長や職員を招いて行う、日本に暮らす外国籍の方の暮らしの現状と課題等を伺う座談会等を通じて協働し、平成31年に当館がフィリピンの俳優人を招聘し、富士見市での滞在制作をした際には、FICECのメンバーとの交流企画を開催する等、劇場での国際交流企画を一挙に展開してきた。 新型コロナウイルス期を境に、実質的な交流が下降気味となっていたここ近年だが、今年度の再始動を機に、令和7年12月に控える大規模改修工事による休館中の活動として、FICECで行われている日本語教室や、こどもクラブ内という企画等と当館の芸術体験(アウトリーチ)をタイアップさせる等の新たな連携の具体化にむけて中期的な視野に立つことができた。 近年、『シアターブリックformデンマーク新作公演(仮題)』及び劇場連携企画vol.2『小さな王子さま』(イタリア)の海外のアーティストによる2作品を、「座・高円寺(杉並区)」と連携した招聘上演に取り組むように、国際プレゼンス向上につとめている。この座・高円寺との連携は令和6年7月のシアターブリック『トーン』(デンマーク)の上演に続くもので、館単独では持続させることが難しい海外のアーティストとの事業が連携することにより可能となる。当館では、開館当初から、長年、子どもたちや若い世代を育む活動にともに取り組んでいる、近隣のおよこ劇場(志木、朝霞、新座)と提携して観客動員に取り組んでいる。
--

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
①小・中・高等学校との連携した事業を充実させる。 ②市内近隣の幼稚園、保育所、市内小・中・特別支援学校と連携した広報活動。 ③市内近隣の文化団体、伝統芸能継承・保存団体、農・商業者等と協働した事業を開催する。 ④貸館利用者へのアンケート調査を実施する。	①アウトリーチワークショップ、吹奏楽クリニック、主催公演の団体鑑賞等で、小・中学校のべ10校、高等学校1校と連携する。 ②普及啓発事業の「サーカス・バザール」、「ふじみ大地の収穫祭」チラシを、市内近隣幼稚園・保育所48施設(4,545名)、市内小・中・特別支援学校18校(8,279名)へ配布。 ③「サーカス・バザール」、「ふじみ大地の収穫祭」を、文化3団体、伝統芸能継承・保存5団体、農・商業18団体の計26団体との協働で実施する。 ④令和7年2月(1ヵ月間)に貸館利用者へのアンケート調査を実施し、「職員の対応」の調査項目5段階評価で上位2段階(「大変満足」「満足」)と回答した人が70%以上。	①・「小中学校へのアウトリーチワークショップ」の実施…のべ14校と連携 ・「ハーツウインズコンサート関連企画「吹奏楽クリニック」団体参加…中学校1校(吹奏楽部)と連携 ・『キラリふじみ狂言公演 万作の会』、『キラリ☆風流寄席』の当館主催公演を芸術体験学習として団体で鑑賞…高等学校1校と連携 ②市内近隣幼稚園・保育所48施設、市内小・中・特別支援学校18校へ配布し、来場・参加を促した。 ③「サーカス・バザール」、「ふじみ大地の収穫祭」を文化4団体、伝統芸能継承・保存6団体、農・商業16団体の計26団体との協働で実施した。 ④「職員の対応」の調査項目5段階評価で上位2段階(「満足」「ほぼ満足」)と回答 ■言葉づかい・身だしなみ →個人90.9% 団体79.3% ■迅速性・正確性 →個人94% 団体75.9%	①当館の開館当初から継続している、小中学校と連携したアウトリーチプログラムの実施に加え、近年では、若手の落語家を主体に番組構成した『キラリ☆風流寄席』で、終演後に学生と落語家による交流の場を設け、そこで若い世代同士が出会い様々なものを交換する等の様々な機会により公立文化施設と学校教育機関の連携が深まり、発展を遂げている。 ②③「サーカス・バザール」は、幼少期や青少年期にむけた当館との出会いの機会となる入口事業として、開催を重ねるごとに家族連れや若い世代の来場が多くなり、早い時期から鑑賞や参加することの楽しさや市内の食や産業に関心や理解を深める貴重な契機となっており、地域振興に欠かせない事業として全市的に認知されている。 市内の農業者や商業者と、「食と文化＝まちづくり」のコンセプトを共有して事業を協働している「ふじみ大地の収穫祭」は、毎年11月23日に「1123いい富士見(ふじみ)の日」として富士見市商工会が主催する「ふじみマーケット」、隣接する大型商業施設「ららぽーと富士見」と商工会が共催する「賑わいづくりイベント」の3つのイベントと一体的に開催することで、地域資源を活かした文化振興とマーケットの活性化等の好循環が生まれている。 ④「職員の対応」について、当館の職員をはじめ、館の舞台技術、施設設備、清掃を担当する委託先の職員を対象に行う、接遇・クレーム対応研修、ハラスメント研修等の一定の成果が、アンケート調査結果に表れている。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

まちづくりの拠点施設として、様々な事業を展開する中でも、特に以下の事業の継続により、「地域文化拠点機能」の向上につとめている。 ＜サーカス・バザール＞ 平成24年に開始し毎年7月に実施しているこの企画は、サーカスのパフォーマンスと市内の農業・商工業者等の市民が出店するマーケットが全館を会場に繰り広げられ、市内外から多数の来場者が訪れる幅広い層の市民に親しまれている事業である。また、本事業は幼少期や青少年期にむけた当館との出会いの機会となる入口事業として位置付けており、市内近隣の幼稚園16施設に約2,700名、市内18校の小・中・特別支援学校に約9,000名にチラシが手渡るようにしている。開催を重ねるごとに家族連れや若い世代の来場が多くなり、早い時期から鑑賞や参加することの楽しさや市内の食や産業に関心や理解を深める貴重な契機となっており、地域振興に欠かせない事業として全市的に認知されている。 さらに本事業を通じて、商業や農業等の生業の違いや、居住地域の垣根を越えて、市民の間に新しい交流や連携関係が生まれている。さらにそうした市民は当館のサポーターとなって、様々な事業に対して協力や支援に尽力いただいている。 ＜ふじみ大地の収穫祭＞ 上記の「サーカス・バザール」での市民との協働の経験を活かし、地域の祭りの再生と活性化を通じてまちづくりを目指すイベント「ふじみ大地の収穫祭」を平成29年度に開始し、毎年11月に行っている。 本年度で7回目となるが、開催当初から商業や農業やまちづくりの分野で活動する市民が組織する実行委員会が中心となり、当館のホール内やロビー空間などに、郷土芸能が演じられる舞台や農家がつくる料理が並ぶ出店コーナーなどを設けて、賑わいを創出している。地元で収穫された“お米”を食のメインテーマに、炊き立てご飯をお客様に振舞い、お米の生産者による「お米作りの秘訣・魅力」のレクチャー、さらに芸能では、お囃子の上演に、本年度の開催では、「お囃子体験ワークショップ」のプログラムを新たに加えて、劇場機能を活かしながら、地域の魅力を再発見する機会を創出している。 ＜学校教育機関との連携による地域の文化芸術の発展＞ 当館からほど近い私立高校と連携関係にあり、当館の主催公演や関連ワークショップの機会が、芸術体験学習といった学校教育プログラムの一つとして活用されている。具体的には当館の事業運営サポート委員会の市民のメンバーが企画する『キラリ☆風流寄席』や、万作の会による「狂言公演」が毎年このプログラムに採用されている。近年ではこれに加え、令和4年度の劇団銅鑼による演劇公演『いのちの花』関連ワークショップに参加した学生2名が、本番のラストシーンに出演した例や、本年度においては、若手の落語家を主体に番組構成した『キラリ☆風流寄席』で、終演後に学生と落語家による交流の場を設け、そこで若い世代同士が出会い様々なものを交換する等の機会によりその連携が深まっている。 こうした公立文化施設と学校教育機関の連携による地域の文化芸術の発展を今後も継続し、着実に発展させていく。

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①公演事業に高校生以下料金を設定し、若年層の来場者数の増加をはかる。	①高校生以下料金での来場者280名(前年度比157.3%)	①高校生以下料金での来場者296名	①幅広い世代の中でも、とりわけ若い世代の鑑賞・参加者の拡充にむけて、高校生以下500円の料金設定(2019年～2023年)や、市内外の各種団体と連携や協働した取り組みを持続的に行ってきた。 本年度、当館の公演事業に訪れた若い世代の296名の観客には、青少年と劇場との出会いの場づくり促進のため、おやこ劇場(志木、朝霞、新座)と協働した、劇団うりんこ『ある晴れた夏の朝』(66名)、当館からほど近い私立高校と連携し、当館主催公演を芸術体験学習として、団体鑑賞した、『キラリふじみ狂言公演 万作の会』(21名)、『キラリ☆風流寄席』(43名)、さらに、以前、吹奏楽クリニックを受講した、近隣の中学校吹奏楽部の生徒が鑑賞に訪れた、『ハーツウインズ・コンサート』(39名)が含まれ、これまでの連携や協働した取組みが、持続的な成果として表れている。		
②アクセシビリティ研修を実施する。	②職員研修を開催して、「障害者差別解消法(令和6年4月1日改正)」の内容を学び、実践に活かしていく。	②障害者差別解消法研修を実施 日時:令和7年2月12日(水)午前10時～正午 会場:当館 展示・会議室 講師:富士見市社会福祉協議会 受講者:職員22名 キラリふじみ職員(パート職員・再雇用職員含) 舞台操作関係委託職員等の関係職員	②令和3年に改正された「障害者差別解消法」について、義務化された「合理的配慮」の概要や「あいサポート運動」を通じて、様々な障がいの特性や必要な配慮を学習し、公共劇場の運営に従事する職員として、その学びを実践に活かすための有意義な研修機会となった。 研修には当館の職員に、館の舞台技術、施設設備、清掃を担当する委託先の職員も加わり、視覚や聴覚、肢体不自由等の様々な障がいのある方々から、直接話を聞くことができたことで、多様な視点を持った当館ならではの「配慮への気づき」に加え、すぐに実践可能な配慮も学ぶことができた。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

芸術監督の創造活動や、当館と連携するアーティスト、芸術団体による鑑賞・参加プログラムに「多様性とアクセシビリティ」の視点を持たせ、ラインナップをしているが、この向上にむけて、「おやこ劇場」や「高等学校」をはじめとする、市内外の各種団体とのネットワークを基礎にした、持続的かつ具体性のある連携が欠かせない。 おやこ劇場との連携は約20年となるが、「サーカス・パズール」でのワークショップ「大きなガラスに絵を描こう!!」の運営、おやこ劇場例会公演(本年度は、劇団うりんこ『ある晴れた夏の朝』)の共同開催を毎年継続し、定例会議(令和6年度は9回開催)においてコンスタントに意見を交換し、多様性のある事業の方針づくりに活かされている。 当館からほど近い私立の「高等学校」との連携は、当館の主催公演や関連ワークショップの機会が、芸術体験学習といった学校教育プログラムの一つとして活用されている。具体的には当館の事業運営サポート委員会の市民のメンバーが企画する『キラリ☆風流寄席』や、万作の会による「狂言公演」が毎年このプログラムに採用されている。近年ではこれに加え、令和4年度の劇団銅鑼による演劇公演『いのちの花』関連ワークショップに参加した学生2名が、本番のラストシーンに出演した例や、本年度においては、若手の落語家を主体に番組構成した『キラリ☆風流寄席』で、終演後に学生と落語家による交流の場を設け、そこで若い世代同士が出会い様々なものを交換する等の機会によりその連携が深まっている。 また、白神芸術監督の当館での活動を締めくくる事業となる、芸術監督企画『Open the Door』(2025年3月)では、白神芸術監督が進行してきた、小学生を対象にしたワークショップ「こどもステーション」、年齢・性別・障がいの有無などを問わずすべての人が一同に参加できる「ダンスの時間」を通じて、白神芸術監督と交流を続けた参加者が企画者、出演者となる、「多様性とアクセシビリティ」への意識や具体性を向上させたオリジナルの創作となった。
--

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点
2002年の開館から今日までの市民との協働による館運営の経験の蓄積を礎とした、これから10年先のキラリふじみの活動を支える当館の新たな市民サポーターによる協力・協働が見込める。

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①様々な事業を通じて、若い世代の新たな市民サポーター・協力者を得ていく。	①3名の新たな市民とサポート・協力関係を構築する。	①5名の市民と新たなサポート・協力関係を構築。 ・当館スタジオで稽古を続けながら、俳優・琵琶奏者として活動している市民と協力し、当館が行う舞台技術講座の参加者がオペレーションを実践する公演に出演した。また、行政が設置し運営する、文化芸術振興委員会の委員に、同氏を当館の協力者として推薦した。(1名) ・芸術監督企画『Open the Door』に、これまでに当館・当館芸術監督によるワークショップ企画等に持続的に参加してきた、小学生から大人4名の市民が公演に出演。(4名)	これまでに、サポート・協力関係を時間をかけて築いてきた市民と「新たなサポート・協力関係の形」を築くことができた。 当館が芸術監督と共にこれまでに取り組んできた、劇場の既存の枠組みを取り払うようなボーダレスな作品創造に、当館のこれまでの創作やワークショップ等を通じて関わり合った市民に参加してもらい、当館の創造活動の根底にある、市民とアーティスト、市民同士の共同作業を通じて、常に進化していく創作の醍醐味を分かち合うこと。そうした持続的な活動から、今回も、また新たな発展にむかうことができた。		

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	チケット収入及び施設利用料を主たる財源とし、外部の財源として、当助成金及び一般財団法人地域創造助成金を毎年獲得して事業を計画・実施している。	採択率49.8%(R6実績)と狭き門となった「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」に採択されること。そのうえで、採択額を要望額の80%を目標とする。(R6実績57%)	令和7年度地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業(公演事業、普及啓発事業)に採択された。採択額は要望額の60.1%。	令和7年12月からの大規模改修工事に伴う休館となる通常とは異なる中での事業計画に苦慮した。要望額には遠いが無事に採択され、事業実施が可能となった。		
(イ)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	当館HP、SNS、事業情報誌HOTキラリ(市内全戸配布)を中心に、特にチケット収入増加を近年意識して取り組んでいる。	令和6年度チケット収入目標を13,567千円とする。(財団令和6年度予算計上額) 令和5年度実績10,147千円 令和4年度実績9,010千円	令和6年度チケット収入合計13,329千円であった。 (財団令和6年度決算額)	一部公演のチケット料金の見直し、館のサポートメンバーの宣伝協力等により、ほぼ目標値に到達できた。		
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	これまでに他館との共同制作やシンポジウム等企画実施で事業連携し、令和5年度は伊藤キム氏のソロダンス公演を「パティオ池鯉鮒」「宮古市民文化会館」「高知市文化プラザかるぼーと」連携して、各地でのツアー上演を行った。	令和6年度は、座・高円寺が主幹となり、デンマークから招聘する「TONE トーン」を、当館、茅ヶ崎市民文化会館、子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩と連携して上演する。	座・高円寺が主幹となり、デンマークから招聘する「TONE トーン」を、当館、茅ヶ崎市民文化会館、子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩と連携して上演した。	令和7年度も、引き続き、同館と連携した海外作品の招聘・上演を進めている。		
(エ)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	行政担当課からのモニタリング調査(月一回)に加え、行政担当部長を含む行政担当職員と理事長以下財団担当職員による連絡調整会議(年4回)を開催する中で、財団の事業計画や財政状況に理解が得られ、有効な意思疎通を図ることができている。	現状維持を保ちつつ、特に令和6年度に関して、令和7年12月から計画されている、ホール天井改修を主とした大規模改修工事への万全の体制・対応について、行政と協議する。	令和7年12月からの大規模改修工事に伴う休館に関して、スケジュールの調整や利用者への告知等を行政との綿密な調整によりトラブルなく対応した。	休館期間中に指定管理者として行う工事への対応等の業務の必要性が理解され、それらの内容が反映された指定管理料の協議、調整が進められている。		
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	平成14年の開館当初から芸術監督制(初代は平田オリザ氏)による開館運営を行い、現在は白神ももこ氏が2期目をつとめる。	令和7年3月31日の任期満了に伴う、次期芸術監督公募を行い、新しい体制を整える。	令和7年4月1日付で、宮内康乃氏(作曲家・演出家)が第6代の芸術監督に就任した。	現在、任期4年の当館での活動のコンセプトづくり、それに基づいた事業計画の策定を進めている。		
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。	運営実務者は令和4年4月に館長に就任した矢野哲史である。事業チーフ時代の芸術監督と国内外のアーティストによるプロデュース公演や多様な市民と協働する事業を手掛けた経験を活かし、多様なアーティストと市民の出会いや交流をさらに促進している。	現状維持につとめていく。	現状のとおりの館長を中心とした劇場運営につとめた。	今年度は、当館の大規模改修工事に関する行政との調整、当館第6代目の芸術監督の公募・選考の2つのテーマへの対応が、館の中期的な運営計画に不可欠なポイントであった。		
(キ)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	(ク)の欄に記載の専門的人材に加えて配置している「事業統括リーダー」は、当館の主催事業の運営を担う制作者として、不可欠なセクションとして機能している。	現状維持につとめるとともに、日々の実践のなかで、後継者育成にも取り組む。	現状のとおりの事業統括リーダーが館の主催事業をトータルにマネジメントした。	事業担当職員の制作者としての育成が急務となっている。		
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。	マネージャー、芸術監督、館長そして舞台技術者などの専門的人材を配置したうえ、館の貸館業務全般や教育機関や文化関係諸団体との共催事業などの業務を担う「管理担当」と、主催事業の企画・運営などの業務を担う「事業担当」との2担当制をとり、各担当の業務分担を明確にしている。	現状維持につとめていく。	現状を維持し、「管理担当」「事業担当」各部門の仕事の質の向上につとめた。	各部門の仕事の質の向上と同時にそれぞれの連携に意識的に取り組んだ。		
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	当館の経営に関わる正規職員の半数以上が40代を超え、ここ2～3年で3名の定年退職を控えるなど財団全体の過渡期にある。令和2年度に3名、令和5年度に1名の若手職員を採用により、若手主体の館運営に徐々に移行している。	若手主体の館運営への移行に、引き続きつとめていく。	若手主体の館運営への移行にむけて、職員募集を積極的に行った。	職員募集に対して、相応しい人材からの応募が無い。ここ数年では応募自体が少ない状況で人材確保に苦慮している。		
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	当館の女性管理職比率は40%(男性管理職3名、女性管理職2名)である。	現状維持につとめていく。	現状維持につとめた。	人材の確保と併せて、引き続き努めていく。		
(サ)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	現在の状況として、産休・育休を取得し、令和5年度から職場復帰した職員1名が短時間勤務制度を利用して勤務にあたっている。	現状維持につとめていく。	現状維持につとめた。	人材の確保と併せて、引き続き努めていく。		
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	財団では、令和元年度に「情報セキュリティポリシー」を策定し、運用している。職員研修の一環として、情報セキュリティ研修を令和3年10月13日に実施した。	現状維持につとめていく。	現状維持につとめた。	引き続き努めていく。		
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	職員研修の一環として、ハラスメント研修を令和6年2月14日に実施した。	令和6年度も同様の研修を計画・実施することで現状維持につとめていく。	接遇・クレーム対応研修を実施した。	職員研修の内容を充実させ、バランス良い実施していく。		
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	財団内での決裁(金額及び契約内容等)を経て、アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	現状維持につとめていく。	現状維持につとめた。	引き続き努めていく。		

4. 総評

・ 団体の自己評価

●当館のビジョン＝「ジャンルや垣根を越えて、アーティストと市民、市民同士が出会い、繋がり、互いの多様性を涵養する開かれた場づくりの実現」のため、公演10事業、普及啓発6事業を、①白神ももこ芸術監督による、多様なアーティストと市民による創造事業と様々な違いを持つ市民が出会い交流する普及事業、②当館のミッションやビジョンを共有する連携アーティストによる、幅広い市民のニーズに応える鑑賞機会の提供、③地域コミュニティの醸成を図るための交流事業、④子どもたちや若い世代にむけた、多様なジャンルのワークショップや小中学校へのアウトリーチプログラムの4つのカテゴリーに区分し、「鑑賞」「体験・交流」「育成」「支援」の事業運営方針に基づき、それぞれに有機的なつながりをもたせ総合的に事業を展開し、概ね当初の目的を達成することができた。

●創造事業の中軸である、芸術監督企画『Open the Door』は、芸術監督任期の最終年、白神ももこのキラリふじみでのこれまでの活動を総括する事業となった。白神芸術監督が進行してきた、小学生を対象にしたワークショップ「こどもステーション」、年齢・性別・障がいの有無などを問わずすべての人が一同に参加できる「ダンスの時間」を通じて、白神芸術監督と交流を続けた参加者が企画者、出演者となる、そうした新たな手法を採った創作となった。会場に訪れた観客は、ワークショップ常連の小学生メンバーに、メインホールホワイエに広がる「こどもステーション展」エリアに導かれ、こどもたちのアイディアから生まれた過去13年の活動の展示を鑑賞し、メインホール舞台上舞台へ移動。本編では、小学生から大人の4名の市民の参加者が、白神芸術監督と競演し、当館の創造活動の根底にある、市民とアーティスト、市民同士の共同作業を通じて、常に進化していく創作の醍醐味を分かち合うことができ、今後の中期的な創造活動への見通しや手応えを感じられた創作となった。

●演劇の分野で、劇団うりんこ『ある晴れた夏の朝』、イエローヘルメッツ『シンベリン』の2作品は、開館当初から、長期にわたり、子どもたちや若い世代を育む活動にともに取り組んできた、近隣のおよこ劇場(志木、朝霞、新座)と提携して取り組み、アフタートークや舞台監督が進行するバックステージツアー、出演俳優による演劇ワークショップ等の関連企画を行い観客層の拡充を図るとともに、およこ劇場との連携もさらに強化できた。

●「キラリふじみ狂言公演 万作の会」と、当館の事業運営サポート委員会の市民のメンバーと協働で企画実施した、「キラリ☆風流寄席」の2事業は、当館にほど近い私立の高等学校の芸術体験学習のプログラムとして活用された。若手落語家を主体に番組構成をする「寄席公演」では、終演後、学生と落語家による交流の場を設け、若い世代同士が出会い、様々なものを交換できる機会として大きな成果をあげた。

●音楽の分野では、「ニューイヤーコンサート2025」、「ハーツウインズ・コンサート」の2事業を、出演アーティストによる小中学校へのアウトリーチや出演アーティストが直接始動するクリニック、さらに吹奏楽部の中学生、未就学児童とその家族を対象にしたりハーサルへの無料招待等、本公演にむけたアプローチを多様に組み込んで実施ができた。

●当館開館5周年を記念して2006年に結成し、地域に活力を与える表現活動が続ける、「キラリ☆かげき団第18回公演」では、市民のメンバーが中心となり、公演の宣伝を団員自らが行き会場を観客でほぼ満席とする成果をあげ、令和7年度の「結成20周年目の公演」への確かな手応えを感じられる公演となった。

●「サーカス・パザール」「第七回ふじみ大地の収穫祭」は、当館に馴染みのない市民との最初の出会いとなる入口事業であり、様々な違いを越えて市民が出会い交流できる、2大イベントとして市民に認知されている。

上記のような目標や成果に向けて、当館では、2002年の開館から今日まで、歴代の芸術監督が「創造性・企画性」豊かな活動の主軸を担い、市民の鑑賞・参加・体験に様々なアプローチを行ってきた。本成果報告でフォーカスされている、国際性、地域文化拠点、多様性、アクセシビリティの各項目への取り組みは、第2次富士見市文化芸術振興基本計画(令和6年度～13年度)の中でも、当館が行政から期待されている項目に重なる。

令和7年4月、第6代芸術監督に就任した宮内康乃氏(作曲家・演出家)と現在すすめている、中長期の事業方針や企画のコンセプトづくりにこれらを活かしながら、文化芸術振興を通じたまちづくりを牽引する当館の役割りを着実に果たしていきたい。

・ 所見

